

## ◆ 研修報告 ◆

### 南十勝農業委員等研修会

2月5日、6日に南十勝農業委員等研修会が開催され、本町から19人が参加しました。

1日目は十勝毎日新聞社児玉匡史編集局長から「インフラ再考本紙年間キャンペーンの取り組みから」と題した講演が行われました。北海道は九州に比べてインフラ整備が遅れており、台風被害や地震による被害が続いたことが特集を組んだ理由であったこと。講師自身、公共投資という点のイメージがあつたが、「公共投資、交通の利便性は、地域の所得に影響する」という専門家の話を聞いて必要性を認識し、十勝の農地面積は全国の1%を占めており、日本の食糧庫を守るといふ観点からもインフラ整備の拡充が必要であると述べられました。

2日目は十勝総合振興局前野宏之農務課長から「十勝農業と農村の発展に向けて」と題した講演がありました。北海道・十勝では農業が地域経済に果たす役割は大きいですが、農家戸数は予想を上回るスピードで減少しており、北海道では農家子弟以外の『多様な』担い

手が必要であるということ、自衛官退職者をターゲットにしているなど興味深い話を聞きました。

### 農政部会視察研修

農政部会(部会長香西浩志委員)

が2月10日視察研修を行い、1カ所目は、清水町の結婚・少子化対策事業「コイノヨカンプロジェクト」について研修しました。

平成28年に町内の出生数が初めて50人を下回り、地域コミュニティが崩壊する恐れがあるという人口減少対策から取り組んだもので、1年目は、半年間で様々な事業を行い、阿部一男町長は「このプロジェクトの開始以降、町内の雰囲気が変わったと感じている」と述べられました。

2カ所目は、更別村でスマート農業実現に向けた取り組みについて研修しました。更別村でも推計を上回るスピードで人口が減少し、高齢化と同時に産業人口の減少が問題であるという人口減少対策から始まったという説明を受けました。解決策の一つとして「十勝さらべつ熱中小学校」を開校し、人材育成を図る取り組みを行った結果、サテライトオフィスに東大研究チームが入ったことが契機とな

り、スマート農業推進のための事業につながったことが紹介され、今後は、生産者の取り組みなどが問題であることがあげられています。

### 十勝農業委員会連合会

#### 女性農業委員研修会

2月21日土幌町で行われ、森勤子委員、渡邊ひろ子委員、谷内会長が出席しました。はじめに、北海道農業会議幡野千春次長から農業者年金制度についての講演があり、農業者年金は農業者からの要請により創設された制度なので、せつかつかんだ権利を使つてほしいという説明を受けました。

次に土幌町の道の駅を運営している株 a t L O C A L 堀田悠希代表からの講演がありました。

土幌町の農業後継者と結婚し、「自分たちが作った作物は誰の口に入っているのだろうか?」という疑問から個別販売を始め、様々な取り組みを経て、道の駅の運営を受けけることになり、オープン前・当初の苦労した話を聞きました。今後は町民・町内業者を巻き込み、道の駅を通じて土幌町の魅力づくり、情報発信をしていきたいと述べられました。

### 各種申請は毎月10日

農地法に基づく各種許可申請（農地の売買、転用など）や地目の現況証明願いの締切りは、毎月10日（閉庁日の場合は直後の開庁日）となっています。

書類を準備のうえ、農業委員会事務局に申請をしてください。申請書の様式は幕別町のホームページからダウンロードできます。

幕別町のトップページ

- 右下の「町政情報」の「幕別町農業委員会」
- 「○各種様式」 をクリック

### ◆ 広報委員 ◆

- ・ 委員長 森 勤子
- ・ 副委員長 帰山 茂義
- ・ 委員 石川 雅洋
- ・ 委員 齊藤 正孝
- ・ 委員 棚 範貴
- ・ 委員 澤邊 佳範
- ・ 委員 松本 誠